京都の交通（こうつう）

Level 2

キャロル

クレアー

May 2020

はじめまして、私はジェニー。アメリカのニューヨーク出身で、日本に留学のために来た。日本は初めてだから、ちょっと緊張している。今日はついに京都に着いた。京都駅は京都の一番大きい駅と言えるだろう。新幹線やJR線や地下鉄などの交通の種類も多い。

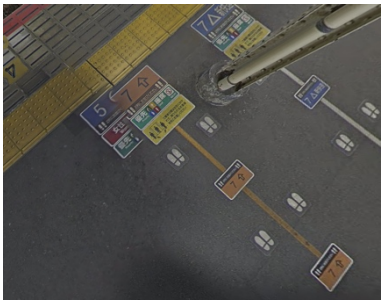
京都駅の標識は分かりやすいのに、駅が大きくて乗り場が多いので迷いやすい。ニューヨークのグランドセントラルターミナルと違って、標識はたいてい言葉が四つもある。日本語を始め英語と中国語と韓国語で書かれているので、日本人だけじゃなくて、日本語が読めない人にとっても分かりやすいと思う。

ニューヨークのメトロノースと同じで、JR の電車の時間や乗り場や種類は電子スクリーンに書かれている。

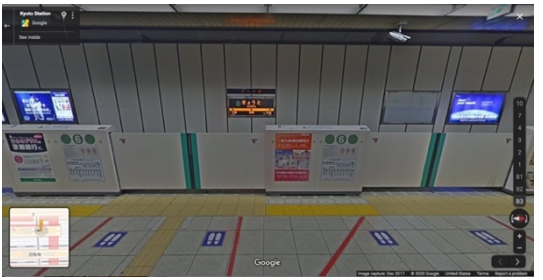
京都駅　　ニューヨークのグランド・セントラル・ターミナル

でも、乗り場へ案内する標識は床にもあって、ちょっとびっくりした。アメリカで全然見たことがなかった。

それに、ホームで、電車の扉がどこで開くか書いてある標識もある。ニューヨークと違って電車がいつも同じ場所に止まるなんてすごいと思う。その標識にも年を取った人



達などのための優先座席や女性専用車の場所と列の指示も書かれている。乗る人は列で待って、降りる人が降りた後に乗るという静かな乗り方だろう。絵もあるし、黄色だし、見やすくてわかりやすい。でも、列のところの◯や△の意味は何だろうか。全然分からない。違う電車によるのかもしれない。



もう一つのアメリカで見たことがないものはホームと電車の間の壁だ。特にホームが込んでいる時に安全のために重要なものに違いない。

それから、電車の中では、安全のために、それぞれ電車のドアに、「開くドアにご注意」という標識が貼ってある。大切なことなので、英語と日本語で赤い文字で書かれている他に、絵もある。

京都は歴史が長い都市なので、名所や名物が多い。だから、今週の週末、京都の名所の一つ、伏見稲荷大社に観光しに行った。伏見稲荷大社の近くのJR稲荷駅は他の駅と違って、特別なようだ。まず、駅に狐の絵や像がある。狐は稲荷大神様のお使いと信じられているので、伏見稲荷大社は狐で有名だ。私は伏見稲荷大社を見学した時、狐のお土産も買った。その周りに、狐の像やお土産がたくさん売られている他にも、狐の絵の標識もあった。

それに、英語と日本語で、「清水寺と祇園はここじゃない」と言う標識があった。祇園と清水寺は伏見稲荷大社と同じで、京都の名所の二つだ。観光客はよく場所を間違えるから、この標識が必要みたいだ。私はぜひ京都にいる間に祇園と清水寺にも行くつもりだ。

同じ駅で、今月の祭事を教えてくれる標識もある。例えば、献茶祭は毎年10月にある、お茶を持って神前に献茶する祭事だ。

伏見稲荷大社は世界で有名だけれども、外国人は日本の伝統的な祭事をあまり知らないのではないだろうか。だから、この標識は日本語だけで書いてある。

実は、調べる前に、全然分からなかった。だから、英語の翻訳と説明があったら、観光客にとって、もっと分かりやすくなるに違いない。それに、日本の文化や伝統的な行事を世界に広げるために、他の言葉に翻訳した方がいいだろう。でも、観光客は色々な間違いをしたり、迷惑をかけたりすることもあるので、祭事の標識はこれからも日本語だけで書かれているのかもしれない。

アメリカと比べると、自転車が多いのは日本の方だと気がついた。「自転車は車道の左」という標識を何回も見た。ある道で、ほとんどのポールにこの標識が貼っている。

それに、駐輪場という自転車の駐車場も多い。ICOCA という京都でみんなが使う電車とバスのＩＣカードさえあれば、自転車を借りられて、とても便利な気がする。だから、日本で自分で買った自転車に乗る人だけでなく、日本にいる間、自転車を借りる人も多いことに気がついた。

ところが、アメリカで、特にニューヨークのような大きい都市で、自転車に乗ることは少し危ない気がする。

その上、自動販売機も日本らしいことの一つだ。日本はアメリカと違って、自動販売機がどこにでもある。駅の近くにある自動販売機で、飲み物だけじゃなくて、JR切符も売られている。大きい文字で、「少しお安いJR切符」と書かれている。切符売り場の前の列はたいてい長いので、これは本当に便利な発明だと思う。アメリカにもそんな自動販売機があるといいな。ところが、日本語だけで書かれているので、外国人は分からないだろう。丹波口駅の周りに名所があまりないし、外国人があまりいないので、外国語で書く必要がないかもしれない。

日本に行きたがっている皆さんに、ぜひ心配しないで日本に行ってほしいと思う。できるだけ日本語を勉強した方がいいが、携帯電話で電子辞書さえあれば、どの標識でもほとんど読めるかもしれない。そして、標識が自分の国とどう違うか、どうしてか考えてみると、社会や文化の違いがもっと分かるようになるのではないだろうか。私は今、日本でたくさん経験をすることに楽しみにしている。

終わり

Created by

Carol Gao & Claire Gillespie

Photo Credit:

@2020 Google

https://www.irasutoya.com/